

役割の一端も担っている。

2006年から2008年は、第15期FD委員会が活動した。第33～35回富士研WSを企画・運営し、第34回では参加者による国民への提言を作成し、公開した。また、今まで実施されてきた医学教育ワークショップの企画・運営方法をまとめた医療プロフェッショナルワークショップガイドを監修した。

2009年から第16期FD委員会が活動を引継ぎ、まず、各委員の情報共有と今後の方針の確認を行った。最初の活動は第42回日本医学教育学会大会プレコングレスワークショップⅢ「臨床研

修指導医講習会のあり方」の企画・運営である。このワークショップには40名が参加し、指導医講習会のカリキュラム・プランニングの重要性を再確認したが、その他のTipsの重要性も認識し、指導医講習会の開催に有益なディスカッションが行われた。

厚生労働省、文部科学省と共催した第36回富士研WSでは、参加者により作成されたプロダクトとして医学教育の改善に関わる提言をまとめ、医学教育誌と日本医学教育学会ホームページに公開する。

8. 教材開発・SP委員会

志村 俊郎(委員長・日本医科大学教育推進室)・吉井 文均(副委員長・東海大学医学部神経内科)

模擬患者(SP)による医療コミュニケーション教育をはじめとして、シミュレーション医学教育は臨床技能教育に関し従来の教育方法に比べて教育効果が高いことが広く知られている。当委員会では、シミュレーション医学教育を通じて臨床教育を効果的・効率的なものとするために、標準模擬患者養成と模擬患者参加型の教育技法の確立、シミュレータ、バーチャルリアリティなどの教材開発、など、シミュレーション医学教育システム全般の構築と充実を図ることを目標とする。現在行っている具体的な活動を以下に示す。

1. 全国の医学部・医科大学を対象に卒前教育における模擬患者参加型教育、および共用試験OSCEに参加する模擬患者の養成状況を明らかにすることを目的に平成21年12月に実態調査を行った。結果は、80医科大学中65校(回収率81%)で、現在内容の分析中である。
2. 近年、各医学部や教育病院でスキルスラボを

持つところが増えつつある。しかし施設はあったとしても、専門的に管理運営する人材がいがないため、有効に活用されていないという施設も少なくない。そこで本委員会では、必要な物品のセットアップからシミュレーション教育のカリキュラムの立案等を担当するコーディネータの創成を後援するために、スキルスラボの管理運営に焦点を当てた第一回研究会を平成21年12月に開催した。

その他本委員会では、下記の検討事項を計画中である。

- ① 模擬患者の全国標準化を図るため、模擬患者養成のためのカリキュラムを作成し、医学教育カリキュラムでの模擬患者を利用した教育の導入を提言する。
- ② シミュレーション医学教育のスキルスラボにおける現状を調査する。